児童との関わり方と地域に何が必要であるか

社会福祉学部　社会福祉学科２年
地域福祉コース　山崎ゼミ
森竜之助

①　自分の成長と気づきについて

私は、サービスラーニングを通して普段しないことをすることにより新たな発見ができ、新しい考え方が生まれたことが自分の成長したところであると考える。

祭りの企画を自分たちで考える貴重な体験ができて自分は成長したと感じている。特に祭りの企画の内容として、楽しい祭りを企画するだけでなく子供たちも成長できるようにお金の計算ができるように計画出来たことだ。子供たちの普段の生活から計算が苦手だということに気づいた。それを企画に移せたことが良かったと思った。障害を持った子供たちに楽しんでもらうためにも子どもたちそれぞれの障害を理解して楽しめるようにルールなどを変更出来た点もよかったと思う。子どもたちには様々な特徴があり、個人に合わせたルールもつくった。

企画の準備する時間があまりなかったが、家に帰ってからも作業をして本番の祭りの日に間に合わすことができた。責任感が出て最後までやりきれたことが良かったと思う。

車いす体験では、車いすの人たちが普段の生活の中にも苦労していることを知った。車いすのことなどについて考えたことがあまりない中で、どうしたら暮らしやすい地域になっていくのかを考えてみた。その中で様々な問題があることに気づき、解決するにはなかなか難しい問題だと思った。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

サービスラーニングに行ってみて、地域の人にもっともっと施設のことを知ってもらえると困っている人がその施設に頼ることができて、その人にとっての居場所になれるのではないかと感じた。また、障害のある人でもない人でも、平等に暮らせる居場所が大切であると思った。

調べていく中で、「心のやすらぎ　人間力アップ　地域の仲間づくり　安心安全な地域づくり」が居場所に必要なことがわかった。居場所を作るには社会資源を利用していかないといけないということがわかった。社会資源は大きく二つに分けることができる。それは、インフォーマルサービスとフォーマルサービスだ。

インフォーマルサービスは、私的なサービスのことで、例えば家族や隣人やボランティアなどがある。そのため、柔軟な対応が可能である。インフォーマルサービスは柔軟な対応が可能であるためたくさんの地域で広まることでよりよくなると感じる。

フォーマルサービスは、公的なサービスのことで、介護保険制度のことである。そのため、安定的な供給が可能である。フォーマルサービスはどんな地域にもあるサービスだと思うので、サービスの内容の幅が広くなっていくことでよりよくなっていくと感じる。

このように二つの特徴を活かしながら居場所が作りやすいようにしていった方がいいと思った。

子どもから高齢者まで障害があるなしにかかわらず、地域に住む人が誰もがふれあい温かい人と人との関係を生み出すのが居場所であるとわかった。そのようなことを今回ゼミの活動で学んだ。

相手の目線で考える

社会福祉学科　社会福祉学部２年
地域福祉コース　山崎ゼミ
横手　匠

① 自分の成長と気づきについて

私が考えるサービスラーニングを通して「気づいたこと」「成長したこと」は、まず実際、車椅子で歩道を奥田から野間までをサービスラーニングを一緒に行った三人で走ることによって今まで特に気にしていなかったような小さくて緩やかな坂も車椅子の人には、すごく大変なことが全員サービスラーニングの中でわかったのである。さらにただ野間までただ車椅子で行っただけではなく、僕らがサービスラーニングに行かせていただいたチャレンジドの利用者さんが、野間に住んでいてその人の話を聞きに行くために行かせていただいたのである。その利用者さんの家では、昔の奥田らへんの町並みであったり、電動車椅子のいろいろな種類を乗せていただいたり、その中の車椅子は四輪のすごく安定する電動車椅子であったり、スピードが調節できるものであったり、多種多様な電動車いすがあったのである。さらに家の中は電動車いすで動きやすいようにスロープを付けられていてそのまま部屋にも行けるようになっていて、トイレやお風呂場にもそういうバリアフリーの場所があってすごいなぁーと思ったのである。ちなみに奥田から野間まで車椅子で行っている時に、「このガタガタの道って直すことはできないんですか？」と聞くと市役所なんかに電話したら直るよと言われてすこしビックリしたのである。このように一日という短い時間でしたがとても有意義な時間を過ごせたと思うのである。私がサービスラーニングでしたことはそれだけではない。チャレンジドの利用者さん（子供たち）に向けて夏祭りをしました。その中身は私たちが屋台を出して、その屋台のゲームをしてもらって得点に応じて現金を渡して、最後にお菓子を購入してもらうというものをしてもらったのである。この夏祭りの目的としては、屋台のゲームを仕事と思ってもらい、ゲームの内容を仕事の密度と思って、つまりたくさん働いたら働いた分だけお金がもらえてその自分で稼いだお金で買える分のお金を出してもらうという、お金の使い方も一緒に学んでもらおうと思い、この夏祭りを企画したのである。ただ職員さんからの言われたダメ出しは、動ける子とどうしても動けない子でお金の差が出てきてお菓子の量などに差が出てくることと、最後にお菓子を売るのではなくて、お菓子を売りながらした方が良かったねと言われた。これは途中からお金を稼ぐ意味が分からなくなった子が大半で後半全くゲームに参加しなくなっていたからである。この二つのことを通して私は何事も相手の立場になって考えていくことが大切だと思ったのである。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

活動を通して、私が見た地域や市民活動の現状や課題は、土地の活用についてだと思う。野間まで車椅子で行った時、何もない広場や誰も使っていないような農地などがすごく気になった。なので今回サービスラーニングに行かせていただいたチャレンジドで子供たちと誰も使っていないような農地でみんなで一緒に農業の体験など野菜を育てつつその土地を有効活用する方法が良いのではないかと考える。他の課題を挙げるとすると市民活動をより活発にするための支援として、団体に対する経済的支援が最も多くして半数が必要と私は思う。資金面の課題で現状では活動予算にあわせた活動を行っていると考えられますが、今後の活動の継続や拡大、新規事業へのチャレンジなどを考えて、経済的支援が求められていると考えられる。

一人ひとりの個別支援・障害者・高齢者の外出のしづらさ

社会福祉学部 社会福祉学科２年
地域福祉コース　山崎ゼミ
渡邊渉

① サービスラーニングでの学びと成長。

私は、NPO 法人チャレンジドという施設にサービスラーニングへ行かせていただいた。NPO チャレンジドは「障害当事者と共に学び共に生きる」をモットーに、障害のある方へのヘルパー派遣、障害のある子どもの日中一時支援、相談、情報提供、障碍者講師派遣、支援者の育成、学習会、交流、イベントなどを行っている施設である。今回、私は夏休み期間ということもあり、ちゃれっこクラブという児童福祉法に基づき発達障害、知的障害、身体障害のある障害児の就学児を対象とした放課後等デイサービスの活動に参加させていただき、障害児の支援について様々なことを学ぶことができた。ちゃれっこクラブの一日の流れは、子供たちが施設にきてからまず、はじまりの会を行い、プールやおもちゃで遊びそのあと、お昼ごはんをみんなで買いに行き食べた後にお昼寝をするという流れである。ちゃれっこクラブの子供たちの中にも本当にいろいろな性格の子供たちがいて、一人ひとりに合った支援方法があり、意識が色々な方向に向いてしまう子には、コミュニケーションをとるときにまず、自分に意識を向けてもらうためにその子と向かい合ってしっかりと目を合わせてから話し始める。褒められるのが好きな子には積極的に声かけを行い褒めていくことが大切である。また、着替えや買い物の際の支援では、すべて手伝って終わらせるのではなく、できる限り自分でできるところは自分で行っていただくことが大切だと学ぶことができた。このように、子供たち一人ひとりに合ったコミュニケーションの方法や最適な支援を職員全員で話しあって最善の方法を探し出していくことが大切だということを感じた。プールなどで一緒に遊びながら支援していくときには、自分自身の言葉遣いや、行動に気をつけ、手本となれるように心がけて支援を行っていくことが大切だと感じた。

サービスラーニングの最終日に自分たちで考えた企画を行わせていただいた。私たちは、楽しみながらお金の使い方を学んでもらうことを目的として、実際の硬貨を使用して輪投げや魚釣り、ボーリングなどのゲームでお金を稼いでその稼いだお金に応じて自分の好きな景品を購入するという企画を考え実際に行わせていただいた。私は、輪投げのブースを担当しルール説明や、輪投げを行う際の補助などを行った。その際には自然と丁寧な言葉づかいを使用して、ゲームを行う子供の運動能力に合わせて輪を投げる位置を調整することができ、臨機応変に対応して成長できた点であると感じることができた。また、積極的に声かけを行い、「今日の最高得点だね」「二本も入ったよ。すごいね」といった声かけで輪投げを楽しんでもらえるように行動することができた。反省点としては、景品の値段とゲームで得られるお金が釣りあてなかった点。運動が得意なこと不得意な子に金額の差ができすぎて

しまった点。この二つをもっと工夫できるとより良いものになっていたと感じた。

② 車いす体験での気づきと地域の課題。

今回のサービスラーニングの中で車いす体験をさせていただいた。この車いす体験で、普段気付けない多くのことに気づくことができた。まず、手動の車いすに乗り道路を走ると、普段歩いているときには気にならないような小さな段差に車いすのキャスターが引っかかってしまいなかなか進むことができなかった。さらに、ほんの少しの道路の傾きでまっすぐ進むことができないなど、小さなことが車いすを利用している人にとってはとても大きな障害になり外出を出来づらくしている原因になっているのだなと強く感じた。また、日差しを遮るものがなく体力が必要で高齢の方だと熱中症や脱水症状の危険があるため一人での外出は困難であると感じた。

電動車いすも体験させていただいた。手動の車いすとは比べ物にならないほど移動が楽にできた。速度も人が歩く速度よりも速く車いすで生活をしている人にとってとても便利なものだなと感じた。しかし、電動車いすでも道路の凹凸や傾きは危険なため交通整理を求めていくことが大切だと感じた。

現在美浜町には巡回ミニバス「自然号」が運行されており、高齢者や障害者の外出や社会参加のための手段として活用できる。この巡回ミニバス「自然号」を地域の人に広く認知していただき、運行する時間やミニバスの台数、運行の日数を増やしていくことが今後の課題だと感じた。これを行うことで私は、地域住民の方々にとってより住みよい街になっていくのではないかと考えている。